

レジメン名

FOLFIRI+bevacizumab

出典 大腸癌治療ガイドライン2014年版  
 カンプト適正使用ガイド  
 アバステン適正使用ガイド

実施部署区分

入院    外来    処置

対象疾患

**結腸・直腸癌**

進行・再発  
補助療法(術前・術後)

投与減量の基準

WBC	2000/mm <sup>3</sup> 未満		
その他	上記基準または下痢が認められた場合、回復を確認後、次回投与時20-25%減量にて再開。		

1コース期間 14日  
 (次のコースまでの標準期間)

総コース数 PDまで

投与中止の基準

WBC	3000/mm <sup>3</sup> 未満	PLT	7.5万/mm <sup>3</sup> 未満※
その他	※適正使用ガイドでは10万/mm <sup>3</sup> だが、制限が厳しいためGrade2の血液毒性として上記の値で登録		

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ペバシズマブ	5mg/kg	NS100mL	初回90分※	day1
イリノテカン	150mg/m <sup>2</sup>	輸液250mL	2時間	day1
レボホリナート	200mg/m <sup>2</sup>	輸液250mL	2時間	day1
フルオロウラシル(急速静注)	400mg/m <sup>2</sup>	NS50mL	全開	day1
フルオロウラシル(持続静注)	2400mg/m <sup>2</sup>	輸液適量	46時間	day1
※初回90分で忍容性が良好であれば2回目60分、3回目以降は30分まで投与時間の短縮可能				

1日投与順 (経時的にプレ Medikation・ホスト Medikation、 溶解液まで含む)
day1 ①生食50mL ルート確保用 ②ペバシズマブ5mg/kg+生食100mL(90分※) (2回目60分、3回目以降30分まで短縮可) ③アロキシ0.75mg/バッグ+デキサート6.6mg (15分) ④イリノテカン150mg/m <sup>2</sup> +5%糖液250mL (2時間) ④'レボホリナート200mg/m <sup>2</sup> +5%糖液250mL (イリノテカンと同時に)(2時間) ⑤フルオロウラシル400mg/m <sup>2</sup> +生食50mL (全開) ⑥生食50mL フラッシュ用 ⑦フルオロウラシル2400mg/m <sup>2</sup> +生食αmL計 100mL (インフューザーポンプ使用にて46時間で投与)
<内服> day1から4日間 ウルソデオキシコール酸(100)3錠 分3毎食後 炭酸水素ナトリウム 1.8g 分3毎食後 (遅発性下痢の予防目的)
day2及び3 デカドロン(4mg)1錠 分1朝食後